

玉串 和代さん（島根県松江市出身）

JICA 草の根技術協力事業

案件名：サンパウロ州カサパーバ市における環境教育推進事業

実施団体：公益財団法人しまね国際センター（島根県）

派遣国：ブラジル

2017年1月29日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

環境教育の指導力培う

サンパウロの北東 120 ㎞にあるカサパーバ市で、国際協力機構（JICA）草根の事業として 3 年前から小学校教員の環境教育の指導力向上に取り組んでいる。2011 年に島根県で環境に配慮した教育施設建築を学んだ JICA 日系研修員の提案で、しまね国際センターが始めた。私は事業の進行管理をしている。

人口 9 万人で、主要産業は農業・牧畜。市街地を少し離れると、サトウキビ畑や田、牧草場が広がる。市北部には、色鮮やかなチョウや鳥が舞い、オンサ（ジャガー）やアルマジロもすむ雄大な山地が広がる。

一見、環境良好とも思えるが、川は流域の工場・生活排水で汚染され、廃棄物の不法投棄やごみのポイ捨ても目立つ。環境教育は、一部の教師が時々行う程度。中身も、ランダムかつ座学中心であった。

そこでモデル校 2 校を選んで、専門家が現地で基礎から指導し、教師を島根に招いて研修をした。言葉の壁や、教育制度、仕事のやり方の違いもあったが、今では、体験を取り入れた環境教育が 4,5 年生で年 80 時間実施されるに至った。

人々は明るく開放的。つられてすぐに、ハグであいさつを交わす仲になった。市長や教育長も、ジーンズ姿で親しく迎えてくれる。そんな愛すべき彼らに、この事業を喜んでもらえたことが、何よりうれしい。

子どもの頃からの環境教育が花開き、いつの日かカサパーバが、ブラジルの環境保全に一石を投じる存在になることを夢見ている。



河岸斜面に植物がある状態と、ない状態を実験する子どもたち。
植物が地滑りに効果があることを学ぶ